

3歳

子供の育ちの姿

- 基本的な動きの「体のバランスをとる動き」「体を移動させる動き」ができるようになってくる。
- 道の歩き方、信号機の見方などを大人と一緒に行動することで知る。
- 大人に促されながら一定の時間内に身支度や食事ができる。
- 自分の好きな物を大切にすることを知る。
- 自分の物、他人の物の他に共同の物があることが分かる。
- 避難訓練の意味がわかり、保育者の話を聞き安全に避難する。

環境構成や援助のポイント

- 固定遊具や巧技台、マットなどの遊具を活用して何度も繰り返しすることに面白さを感じることでできる環境を用意する。
- 危険なことに子供自ら気付けるように、場を捉えて、繰り返し指導する。
- 時間の目安を示し、一定の時間で身支度や食事をしよう意識できるようにする。
- 決められた時間内に行動しないと人に迷惑をかけることを、場を捉えて知らせる。
- 保育者が物を大切に扱う姿を見せ、物への関わり方の手本を示していく。
- 物への愛着がもてるよう、体と深く関わったり、物に心を通わせて遊んだりする体験を大切にすること。また、自分の物以外に共同の物があることに気付かせる。
- 地震や火災が起きた時に自分の身を守り、安全な場所に避難できるように繰り返し訓練する。

家庭に伝えるポイント

- 道を歩くときは、安全確保のために必ず手をつなぐ。
- 安全を気遣うあまり過保護や過干渉にならないよう、子供が体験する姿を見守る。
- ・身支度、食事など一定の時間内でできるように促し、出来た時には大いに褒めて認める。
- ・登園時間を守る大切さを伝える。(みんなと一緒に気持ちよく一日がスタートできる。)
- ・周りの大人が正しい物の扱い方や物を大切にすることを教えることが重要である。
- 遊びや生活の区切りで片付ける。
- 家族やみんなの物を大切にすることを手伝いで気付かせる。

4歳

子供の育ちの姿

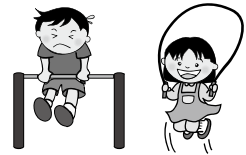
- 「用具などを操作する動き」が上手になってくる。
- ルールや決まりのある遊びを楽しむ。
- 信号機の意味や道路の歩き方などの交通ルールが分かり、守ろうとする。
- みんなと一緒に行動できることの喜びや、時間内でやり遂げたり、速やかに行動したりすることに喜びを感じる。
- 遊びや生活に必要な物に気付き、準備や片付けをする。
- 合図と指示を落ち着いて聞き、避難する。

環境構成や援助のポイント

- いろいろな動きができるようになったことを認め、自信と意欲につなげる。
- ・縄跳びやボール遊びなど、体全体でリズムをとったり、用具を巧みに操作したりする遊びの中で、経験できるようにする。
- ・鬼ごっこやボール遊びなどの簡単なルールのある集団遊びを取り入れ、体を動かす心地よさを十分に味わわせる。
- ・交通ルールや標識の見方・見分け方について実物を見せたり、交通教室を開催したり、視聴覚教材などを通して学ぶ機会をもったりする。
- ・生活の中で、時計を見たり、時間を意識したりして生活することの大切さや気持ちよさに気付かせる。
- ・「明日も遊べるように」「次の人が使いやすいように」など、子供が自分の生活体験から片付ける目的や必要性に気付くように場を捉えて知らせる。

家庭に伝えるポイント

- ・友達と誘い合って戸外で遊ぶ機会をつくる。



- ・家族での外出や遊びは、安全教育の絶好の機会と捉え、交通安全について一緒に体験するとよい。
- ・家庭でも、時間を意識し見通しをもって生活する。

5歳

子供の育ちの姿

- 複数の動きを連続的に行うことができるようになる。
- 自分たちでルールを考えたり、発展させたりして楽しむ。
- 危険な物や場所が分かる。
- 行事や活動を楽しみにし、準備をしたり、自分たちで進めようとしていたりする。
- 決められた時間内で行動する。
- 安全な遊び方や交通ルールが分かり、気を付けて行動する。
- 整理整頓をする。
- 自分で安全な場所や避難の方法を見つけ、緊急時に安全に避難する。
- 物を大切にすることを知る。
- 進んで外に出て、十分に体を動かして遊ぶ。

環境構成や援助のポイント

- ・子供が挑戦してみたいと思い、複数の動きが含まれる遊びに取り組んでいけるようにする。
- ・遊具を用いた複雑な動きが含まれる遊びや、様々なルールでの鬼遊びなどを取り入れる。
- ・周囲の状況が安全であるか確認するよう繰り返し指導する。
- ・先の見通しをもたせ、次の行動を意識させる。
- ・子供と一緒に話し合ったり片付けたりして、自分たちで生活の場を整えようとする気持ちを育てていく。
- ・自分の持ち物や共同の物の整理整頓がきちんとできるように声掛けをし、見届ける。
- ・まず、保育者が整理整頓を心掛け、場を捉えて指導していく。
  - ・なくしたら探す。
  - ・壊れた物は直して使う。
  - ・最後まで使い切る。 など

家庭に伝えるポイント

- めあてに向かってがんばっている姿を褒める。(がんばってもできないときは悔しさに寄り添い励ます。)
- 子供自身が、安全かどうか気を付けて行動するよう見守る。
- ・子供の話や便りから、行事等の見通しをもち、親子で活動を楽しみにしたり、準備したりする。
- 道の歩き方や横断歩道の渡り方は、親子でしっかり確認し合う。
- 繰り返し使う、最後まで使うなど、大人が手本を見せる。
- ・地域総合防災訓練等に家族で参加し、防災意識を高める

6歳

子供の育ちの姿

- 運動遊びでは、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりする。
- 安全に気を付けて登下校しようとする。

指導のポイント

- ・運動遊びでは、公正な態度で勝敗を競ったり運動するだけの十分な間隔があるかを確認したりして、場の安全に気を付けるよう指導する。
- ・交通ルールやマナー、防犯について指導することにより、安全に登下校できるようにする。

家庭に伝えるポイント

- ・家庭生活においても、場の安全に気を付けて生活できるよう声掛けをしたり、見守ったりする。
- ・交通ルールやマナーについて確認したり、通学路の様子を聞いたり一緒に歩いたりする。

7歳

小学校入学後

## II 人と関わる力

### 2 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

要領・指針のねらい・内容との関連	乳児 1歳以上3歳未満児 3歳以上児	身近な人と気持ちが通じ合う①-①⑤ 人間関係①②-②③ 人間関係①②-②④
------------------	--------------------------	---

年齢の目安	子供の育ちの姿	環境構成や援助のポイント	家庭に伝えるポイント
0歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことや物に関心を持ち、身近な環境に自分から関わろうとする。</li> <li>見つけた物や欲しい物を指さして知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の見える範囲に楽しい物やことを示し、興味をもてるようにする。</li> <li>戸外に出て散歩をするなどし、外の空気を吸い、気分転換できるようにする。</li> <li>子供が興味をもったことに言葉を添えて共感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の興味ややりたいことを大切に受け止め、要求に応えられる気持ちをもつ。</li> <li>子供の発したことに対して、声を掛けたり、受け止めたりする。</li> </ul>
1歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>何でも自分でやりたがる。</li> <li>だだをこねたり、いやいやをしたりすることが多くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちを受容しながら、さり気なく手伝い、自分でやったという満足感を味わえるようにする。</li> <li>思いや気持ちをしっかりと受け止めるが、いけないことは、なぜいけないのか理由を添えて繰り返し丁寧に伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の依存と自立の時期を温かく見守る。(思いを受け止める・待つなど)</li> <li>保護者の悩みを受け止め、子供のこの年齢の発達の特徴を話す。</li> <li>家庭に根気よく繰り返し言葉を添えて伝えていく。</li> </ul>
2歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のやりたい遊びを楽しむ。</li> <li>自己主張が強くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの遊びが存分にできるように玩具や場所を整えたり保育者が一緒に遊んだりする。</li> <li>「やってみたら面白い」と感じられる場を繰り返し設け、物事への興味や関心、意欲を引き出していく。</li> <li>子供の気持ちを受け入れ、納得できるよう言葉で伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭でもやりたい遊びにじっくりと取り組み、満足感を味わうことが大切である。</li> <li>家庭で手伝いをすることは、責任感、有能感、自己肯定感を育むことにつながることを知らせる。</li> <li>繰り返し根気よく子供に関わっていく。</li> </ul>
3歳			

### Column 幼児期に育みたい自立心

「自立心」は、「諦めずにやり遂げる」「自信をもって行動する」など、育成を目指す資質・能力の「学びに向かう力」と深く関連しているとともに、いわゆる非認知的能力とも関連していると言われています。非認知的能力については、世界的にも研究が進み、乳幼児期に非認知的能力を育むことがその後の人生を支えることが明らかになっています。

「自立心」は、保育者との信頼関係を基盤に自己を発揮し、身近な環境に主体的に関わり活動する中で育まれるものです。保育者は、子供の育ちを願い、難しいことに挑戦していこうとする気持ちを支え、達成感を味わうことができるようにすることが大切です。こうして育まれた自信や自己肯定感は、小学校入学直後に不安な気持ちや戸惑いがあったとしても、自分らしさを発揮したり自分なりに課題を解決したりしていく原動力になります。「自立心」の育みは豊かな学びを得ることに繋がります。

3歳

子供の育ちの姿

- 自分でできることが増え、身の回りのことや興味をもったことを自分でできるようになる。
- 皆から認められることに喜びを感じる。



環境構成や援助のポイント

- うまくできないときには気持ちを受け止め、やり方を知らせたり、励ましたりする。
- できた時には大いに褒め、共に喜んでいく。
- 簡単なことやものに、一緒に取り組み、できた時には、十分に褒めてあげることで、満足感を得られるようにする。

家庭に伝えるポイント

- 子供が身の回りのことが自分でできるようになると、自分への自信や物事に対する意欲が持てるようになることを伝える。
- 自分でできることが増えるが、家庭では常に、温かいまなざしで見守り、共感が必要な時期であることを伝える。

4歳

子供の育ちの姿

- 自分が少し難しいと思ったことにも自分から取り組もうとする。
- 友達の様子に刺激され、自分もやってみようとする。

環境構成や援助のポイント

- 子供が自分で決めたことを、最後までやり続けていく努力の過程をしっかり見守り、認め、励ますようにする。
- 友達に認められたり励まされたりする機会を設ける。



家庭に伝えるポイント

- 子供の頑張っている姿を認めたり、見守ったりし、満足感や自信をもたせることを伝える。
- 友達から影響を受けることが多い時期であるため、家庭でも日常的に友達と遊ぶ機会を設ける。

5歳

子供の育ちの姿

- 周囲の励ましにより目標に向かってあきらめずにやり遂げようと頑張る。
- できたうれしさや充実感から更に自分で課題を設定し、もっと難しいことにも挑戦しようとする。
- 進んで身近な人や環境に関わっていく中で自分や友達の良さや特徴を知る。

環境構成や援助のポイント

- 子供に応じた具体的な目標を示し、やる気につながる励ましやアドバイスをする。
- 友達と一緒にだから楽しい、頑張ることができるという体験を十分に積み重ねていくようにする。
- 園生活を主体的に送ることができるようにその日の流れや必要なことをわかりやすく提示する。
- その子なりの良さや特徴を具体的に伝え、自己肯定感につなげていく。
- 周りの友達や保育者に認められる体験ができる場を設ける。

家庭に伝えるポイント

- 子供の気持ち（嬉しい、悔しいなど）に共感し、しっかり受け止めると子供は、自ら次へ進む意欲をもつことを伝える。
- 子供の一生懸命挑戦する姿を認めることで、意欲をもたせていく。
- 子供が周りの人に認めてもらえる場を設ける。

6歳

子供の育ちの姿

- 自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む。
- 生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む。
- 自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、教師や友達に聞いたりしながら粘り強く取り組む。

指導のポイント

- 温かな雰囲気を作り、安心して自分の思いや考えを表現できるようにする。
- 友達の良さを伝え合う場を設定し、自己肯定感を高められるようにする。
- 自分のやるべき勉強や仕事にはどのようなものがあり、しっかり行うことの意義を自覚できるようにする。

家庭に伝えるポイント

- 家庭生活の中で、子供の思いや考えを聞く場面を設ける。
- 人やものに関わる体験を重視し、成功体験を増やしていく。

7歳

小学校入学後

## II 人と関わる力

### 3 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

要領・指針の ねらい・内容 との関連	乳児 1歳以上3歳未満児 3歳以上児	身近な人と気持ちが通じ合う①②③-②③ 人間関係②-③④⑥ 人間関係②③-⑧
--------------------------	--------------------------	--

年齢の  
目安

0歳

#### 子供の育ちの姿

- 安心できる関係の下で身近な大人と遊ぶ。

#### 環境構成や援助のポイント

- 十分に愛情をもって接し、スキンシップをとりながら安定した関係をつくる。
- 子供の名前を呼び、保育者は声のトーンや顔の表情などに気を付けながら語り掛ける。
- 保育者から大切にされているという実感がもてるよう温かく関わり、愛着関係を形成していく。

#### 家庭に伝えるポイント

- 優しい声での応答、スキンシップや親子での触れ合い遊びを大切にす。
- 常に子供の泣き声やサインをすばやくキャッチし、愛着関係を形成することを伝える。

1歳

#### 子供の育ちの姿

- 一人遊びをする。
- 同年代の子供と同じ場所で遊ぶ。
- 促されて相手にものを渡すことができる。

#### 環境構成や援助のポイント

- 一人遊びをしている時間を見守る。
- 保育者が仲立ちをし、同年代の子供への関心がもてるようにする。
- 相手の気持ちを言葉で伝える。

#### 家庭に伝えるポイント

- 子供の発達に合った玩具を用意する。
- 子供が我慢できたり譲ったりした時は褒める。

2歳

#### 子供の育ちの姿

- 友達の遊びに興味をもち、やってみようとする。
- 自分のやりたい遊びを楽しむ。
- 少しずつ友達を意識し同じ遊びを楽しむ。

#### 環境構成や援助のポイント

- 共通の簡単な遊びができるような玩具や場を提供する。
- 保育者も一緒に遊びを楽しむ。
- 思い切り遊べるような場や時間をつくり見守る。
- 友達と一緒に遊びを楽しめるような環境づくりを行う。

#### 家庭に伝えるポイント

- 繰り返し遊び姿に共感する。
- 家庭で子供と遊びを共有する時間をもつ。
- 子供が思い切り遊べるように、時間や場をつくる。
- 子供同士が関われる時間をつくる。

3歳



3歳

子供の育ちの姿

- 自分と同じ遊びをしている友達と関わって遊ぶ。
- 困っている友達がいると傍に行き、声を掛けたり様子を伺ったりして気に掛ける。

環境構成や援助のポイント

- 自分の思っていることが言えるような雰囲気や関係づくりを心掛ける。
- 同じ場にいる子供の橋渡しをしたり、必要に応じて見守ったりする。
- 子供同士の様子を見守り、優しく接する気持ちを認める。

家庭に伝えるポイント

- 子供に自分の気持ちを聞いてもらうだけでなく、友達の気持ちも伝え、時には我慢することも伝える。

4歳

子供の育ちの姿

- 自分の思いを伝えるが、友達の思いも聞くことでどうしたらよいか考えようとする。
- 遊びや友達との関わりの中で、次第に共通の目的を持つようになる。

環境構成や援助のポイント

- ぶつかり合いやいざこざなどが生じた場面でお互いの気持ちを伝え、友達の気持ちに気付くよう仲介する。
- 共通の目的が生まれていく過程を大切に、友達とイメージや目的を共有しながら、お互いの思いも受け入れて、遊びを楽しみながら援助する。

家庭に伝えるポイント

- 家庭でも同年代の友達と遊ぶ機会をつくり、刺激を受けさせたり友達と遊ぶ楽しさを感じたりできるようにする。

5歳

子供の育ちの姿

- 遊びの中で困ったことを相談したり、アイデアを出し合ったりして遊びを進めようとする。
- 自分の力を発揮したり、友達のよさを認め合ったりしながら、協力して遊ぶ楽しさや充実感を味わう。

環境構成や援助のポイント

- 協同的な遊びを進めていく中で、思いやり、よさを認め合ったり、困難を解決したりしながら共通の目的を実現させていく楽しさや満足感を味わえるようにする。
- 友達のよさに気付いたり、集団の中で力を発揮できるようにしたりする。
- 葛藤体験を大切に、保育者の姿勢や言葉掛けを通して一緒に遊ぶ楽しさや共同して活動することの大切さを味わえるようにする。

家庭に伝えるポイント

- 友達とのいざこざはお互いの話をよく聞き、大人が答えを出すのではなく、どうしたらよいか子供と一緒に考えたり、行動したりすることが大切であることを知らせる。また、時に子供の言葉をうのみにせず、言葉の裏側にある心情をしっかり受け取り、子供に返すことも必要である。

6歳

子供の育ちの姿

- 集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力する。
- 友達と様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して生活したり学び合ったりする。

指導のポイント

- 子供たちが意見を出しやすいような雰囲気をつくる。
- 友達との学習活動を積み重ねながら、学校から地域へと少しずつ関わる対象を広げていくようにする。
- 相手意識や目的意識を明らかにするとともに、相互の違いを認めて理解し合うことや受け入れることの重要性に気付かせる。
- 自分と友達などとのつながりを大切にしながら、学びを創り出せるようにする。

家庭に伝えるポイント

- 子供たちの興味や意欲を引き出して、よく話を聞くようにする。
- 様々な人と関わる機会を作り、様々な立場や考え方が存在することに気付いたり共感したりする。
- 身近な人々と関わることのよさや楽しさを感じられるようにする。

7歳

小学校入学後

## II 人と関わる力

### 4 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

### ⑨ 善悪の判断

要領・指針の ねらい・内容 との関連	乳児 1歳以上3歳未満児 3歳以上児	身近な人と気持ちが通じ合う①②-②③ 人間関係①③-①③⑤ 人間関係①②③-①⑤⑦⑨⑩⑪
--------------------------	--------------------------	--

年齢の  
目安

0歳

#### 子供の育ちの姿

- あやされると、安心して声や表情で応えようとする。
- 身近なものや、おもちゃなどに関心を示し、舐めたり触ったりして遊ぶ。
- 体の動きや表情・発声・喃語を優しく受け止めてもらい、大人とのやり取りを楽しむ。

#### 環境構成や援助のポイント

- 生理的・精神的欲求や甘えを十分に満たし、愛情をもって、子供を尊重しながら応答的に関わることで、信頼関係を築くようにする。
- 十分な愛情をもって子供の欲求に応え、遊ぶことの楽しさを感じられるようにする。
- 子供が安全に遊べるよう、場所の確保やおもちゃの選別など、適切な環境づくりをする。

#### 家庭に伝えるポイント

- 日常の温かい関わりを大切にす。 (公共の場などで迷惑をかけないよう、静かに過ごせる方法を工夫する。)
- 日常生活や遊びを通して、家族や身近な人との関わりを大切にす。
- 子供が遊ぶことの楽しさを十分感じられるように、家庭でも触れ合い遊びを大切にす。

\*「家庭に伝えるポイント」の○印の内容は、「はますくファイル・ノート」「家庭で大切にしたい子育てのポイント」の善悪の判断に記載されているもの。

1歳

#### 子供の育ちの姿

- 安心して関わることができる大人を求める。
- 他者を意識し、行動を真似たりする。
- 友達と関わるようになるが、頻繁におもちゃを取り合ったり自分の思い通りにならないと泣いたり怒ったりすることがある。

#### 環境構成や援助のポイント

- 一つのおもちゃで遊んだり、「みたて、つもり」を共有して遊んだりなど、関わりをつくり出せる遊びをする。
- 友達とのやりとりを見守ったり、ぶつかり合いの仲立ちをしたりしながら保育者が相互の言い分を聞き、代弁することで相手の思いに気付かせる。

#### 家庭に伝えるポイント

- この時期に言っても分からないだろうと放任するのではなく、愛情をもって、分かりやすく伝える。
- 同年代の子供がいる公園に出掛けたり、遊びや子育てサークル活動などに参加したりする。
- ぶつかり合いの仲立ちの仕方をアドバイスする。
- 子供の言動に振り回されないで子供の気持ちを受け止めつつ、いろいろなことに冷静に対応してもらおう。
- 大人が手本を見せる。

2歳

#### 子供の育ちの姿

- 他者の反応を見て、よいことや悪いことがあることに気付く。
- 「貸して」「代わって」など、次第に言葉で伝えられるようになる。
- 友達と一緒に遊ぶようになるが、平行遊びが多い。
- 自分の気持ちに共感してくれる友達の存在を感じる。

#### 環境構成や援助のポイント

- よいことをしたときは、しっかりと認め、「よいことをすると心地よい」「よいことをまたやろう」という気持ちを育む。
- 人の嫌がることをしたときは、相手の気持ちを代弁し、何が嫌だったのかということに気付かせていく。
- 交代で使う・順番を待つ・使いたいときは相手に「貸して」と言葉で伝えることなど、場を捉えて知らせる。
- 同じ場で、それぞれが好きな遊びを楽しむるように配慮し、互いの存在に気付くようにする。

#### 家庭に伝えるポイント

- いろいろな場面を捉えて、よいことと悪いことを子供が納得できる言葉で伝える。
- 人に迷惑が掛かることや、危ないことをした時には、何がいけなかったのかその場で伝え、教える。



- 子供はいろいろな友達と関わりながら、大人との付き合いだけでは経験できない体験を経て成長していくことを伝える。

3歳

3歳

子供の育ちの姿

- ・自分のしたことが、相手の心を傷つけたということが分かる。
- ・簡単なルールが分かり、集団遊びを楽しむが、ルールを無視したり自己主張やけんかをしたりして、遊びが中断することが多い。
- ・泣いたり、困ったりしている友達のことを親身になって手助けするようになる。

環境構成や援助のポイント

- ・友達とのやりとりの中で、友達が喜んだり、泣いたり怒ったりするのを見て、自分がしたことのがよかったのか、悪かったのか、どうするとよいのか、などについて自分なりに考えていけるよう働き掛ける。
- ・鬼ごっこやかくれんぼなどの簡単なルールのある遊びを、みんなで繰り返し楽しむ。
- ・いざこざが生じた時には、相互の言い分を聞いたり代弁したりするなど仲介し、ルールを守る必要性に気付かせていく。

家庭に伝えるポイント

- ・ルールのある遊びを楽しむ体験をすることが、ルールを守って遊ぶことにつながることを伝える。
- ・相手の気持ちに気付けるよう、言葉で伝えたり、一緒に考えたりする。
- ・友達との関わりを温かく見つめ、喜びや悲しみを共感できるように見守る。

4歳

子供の育ちの姿

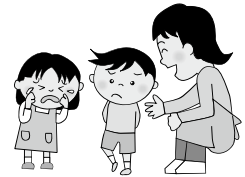
- ・ルールを守ると楽しく遊べることが分かる。
- ・友達の大切さを感じ、仲間意識を深めていく。
- ・よいことや悪いことを自分なりに考えるようになり時には、我慢するようになる。

環境構成や援助のポイント

- ・ルールを守ることの大切さや、守らなければ楽しくないことに気付かせ、ルールについて意識できるようにする。
- ・子供同士のやりとりを見守りつつ、困ったときには適切な援助ができるよう、一人一人の特性や友達関係、好きな遊びなどをしっかり把握する。
- ・幼児期の特性から、いけないと思っても、同じことを繰り返すことがあるため、保育者は、一貫性のある態度で、繰り返し働き掛ける。

家庭に伝えるポイント

- きょうだいや友達ともめたときには、気持ちを聞いたり相手の思いに気付かせたりして、判断力や我慢する心を育てる。
- ・家庭でできるマナー、人としての社会的規範をしっかりと捉える。
- ・よいこと、悪いことを言葉で繰り返し丁寧伝えていく。



5歳

子供の育ちの姿

- ・感情や行動をコントロールする力が付き、我慢したり人に譲ったりすることができるようになる。
- ・勝敗のある遊びを楽しみ、友達と作戦などを立てて遊べるようになる。
- ・友達と関わりながら様々な感情を体験し、喜びや悲しみなどを共感し合う。
- ・よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。

環境構成や援助のポイント

- ・子供同士で遊びを楽しんでいるときは様子を見守り、困ったときには考えさせたり方向付けをしたりして適切な援助をする。
- ・ルールをつくったり、つくり変えたりして遊ぶ過程で、仲間と調整したり、工夫したりする体験を重ね、きまりを理解し守ろうとする力を育てていく。
- ・日常生活の中で、子供が主体的に善悪に気付いたり、判断したりした姿を認める。

家庭に伝えるポイント

- ・家庭でも楽しく遊ぶための子供のアイデアを大切に、一緒に楽しみながら、遊ぶ体験をする。
- ・社会のルールが自分のルールになるよう、心に根付くまで繰り返し伝える。

6歳

子供の育ちの姿

- ・気持ちや行動を自律的に調整し、素直に伸び伸びと生活する。
- ・よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行う。

指導のポイント

- ・身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てる。
- ・よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして、小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てる指導を充実していく。

家庭に伝えるポイント

- ・子供の少しの変化に気づき、言葉掛けをしたり、対応したりする。
- ・いけないことをしてしまったときには素直にその非を認めあやまることができるとともに、人の失敗を責めたり笑ったりしないようにし、正直で素直に伸び伸びと生活できるようにする。
- ・人としてしてはならないことをしないことについて、一貫した方針をもち、毅然とした態度で接していく。

小学校入学後

7歳

## II 人と関わる力

### 5 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園・所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

#### ⑩ 愛着

要領・指針の ねらい・内容 との関連	乳児 1歳以上3歳未満児 3歳以上児	身近な人と気持ちが通じ合う③-①⑤ 人間関係①②-③④ 健康①-① 人間関係②-①⑬ 健康①-① 言葉①②-①
--------------------------	--------------------------	--

年齢の  
目安

0歳

#### 子供の育ちの姿

- ・笑う、泣くなど自分の欲求を表現する。
- ・人見知りが強くなる。
- ・声を出して周りの注意を引こうとする。
- ・あやしてもらおうと欲求が満たされ、安心感をもって過ごす。

#### 環境構成や援助のポイント

- ・表情、仕草、行動などから、子供の欲求を理解し、十分に欲求を満たすように応答的、積極的に関わる。
- ・保育者から大切にされているという実感がもてるよう温かく関わり、愛着関係を形成していく。



#### 家庭に伝えるポイント

○声を掛けながらスキンシップをする。(人への基本的信頼感を築く大切な時期である。愛されているということを実感できるようにする。)

\*「家庭に伝えるポイント」の○印の内容は、「はましくファイル・ノート」“家庭で大切にしたい子育てのポイント”の愛着に記載されているもの。

1歳

#### 子供の育ちの姿

- ・身近な大人に喜んで関わろうとする。
- ・見守られながら、一人遊びや外遊びなどを楽しむようになる。
- ・自分の身近な存在に気づき、親しみの気持ちを表す。

#### 環境構成や援助のポイント

- ・スキンシップを大切にし、触れ合い遊びなどを通して、信頼関係を築く。
- ・一人一人の子供が取り組んでいる姿を認め、励ましながら安心して過ごせるようにする。
- ・子供の気持ちを温かく受けとめ、安心して言葉や行動で表せるようにする。

#### 家庭に伝えるポイント

○家族で過ごす時間を意識してつくる。(家族とのよりよい関係が情緒の安定を図る。子供の話を十分に聞くことが大切である。)

・子供の「やってみたい」という気持ちを大切に、見守ったりともに遊んだりする。



2歳

#### 子供の育ちの姿

- ・身の回りに様々な人がいることに気づき、他の子供たちとも徐々に遊ぶようになる。
- ・大人に仲立ちしてもらおうことで、他の子供たちと関わるようになる。

#### 環境構成や援助のポイント

- ・いろいろな友達と関わるように、保育者がきっかけ作りを行う。
- ・保育者も一緒に遊びを楽しむ。
- ・同じ場でそれぞれが、好きな遊びを楽しめるように配慮し、互いの存在に気付くようにする。

#### 家庭に伝えるポイント

○買い物や散歩に出掛け、近所の人に出会う機会をたくさんつくる。

・子供はいろいろな友達と関わりながら、大人との付き合いだけでは経験できない体験を経て、成長していくことを伝える。

3歳

### Column

体験を重視する幼児期にふさわしい情報の活用とは・・・

近年は、幼児を取り巻く環境においてもパソコン・タブレット等情報機器は身近な物となっていますが、体験を重視する幼児期には、子供の豊かな体験を補完する役割として、“直接体験では得られない新たな気づきを促すために活用する”ということを共通理解しておくことが大切です。

また、情報の活用とは、機器だけでなく、地域の人や施設などから得た情報を園内の遊びや生活に活かし、よりよく発展させていくことも指します。こうした姿は小学校生活においても、関心のあることについての情報に気付いたり取り入れたりする姿に繋がっていきます。



3歳

子供の育ちの姿

- 身近な大人に親しみをもち、自分を出せるようになる。
- 小学生や地域の人など身近な人と関わってみようとする。



環境構成や援助のポイント

- その子なりの思いを一人一人丁寧に受け止め安心して自分の思いを出せるよう、信頼関係を築いていく。
- 行事や活動等の場で一人一人の様子や思いを見守り、時には保育者が仲介するなどして無理なく関わりが楽しめるようにする。

家庭に伝えるポイント

- 自分でしたい気持ちと、甘えたい気持ちの両方があることを受け止める。

4歳

子供の育ちの姿

- 生き生きと生活し、伸び伸びとやりたいことに取り組むようになる。
- 感情が豊かになり身近な人の気持ちを察することができるようになる。
- 園外の人とも進んで関わり、親しみをもち。

環境構成や援助のポイント

- 一人一人のよい所を認め、子供が自分らしく過ごし、自分のやりたいことを伸び伸びと行えるようにする。
- 保育者も素直な気持ちを表していく。
- 小中学生や高齢者等、様々な人との触れ合いの場を設け、いろいろなことを感じたり、体験できる機会を作ったりする。

家庭に伝えるポイント

- 身近な人に親しみをもてるよう親子で関わる。



5歳

子供の育ちの姿

- いろいろな人との関わりを喜ぶようになる。
- 身近な事象に興味や関心をもち。
- 家族や身近な大人から愛情を受け、安心して過ごしたり親しみをもって関わったりする。

環境構成や援助のポイント

- 地域の人と挨拶を交わしたり、お店で働く人と交流したりする中で、出てきた感想や気持ちを大切に、遊びにつなげていく。
- 公共の施設等を訪れる中で、その場所や状況に応じた行動をすることの大切さや社会とのつながりを意識できるようにする。
- 地域の人から話を聞いたり、実際に体験させてもらったりする中で、自分だけでは気付かなかったことを知る喜びが味わえるようにしていく。
- 子供の関心に応じて、絵本や図鑑や写真、新聞やインターネットで検索した情報等を遊びに取り入れやすいように保育室に掲示したりコーナーを作ったりして、幼児の情報との出会いを工夫する。
- 様々な人に見守られ育てていることへの感謝の気持ちが感じられるような声掛けをしていく。

家庭に伝えるポイント

- 様々な人との関わりの中で次のことが育つことを伝える。
  - 人の優しさを感じる。
  - 人と関わる楽しさを味わう。
  - 感謝の気持ちをもつ。
  - 相手のことを思いやる。
  - 人の役に立つ喜びを知る。
- 家庭でも地域での活動に意識的に参加し、地域に親しみもてるようにする。

6歳

子供の育ちの姿

- 相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しむ。
- 関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れる。
- 地域への親しみや地域の中での学びの場を広げていく。

指導のポイント

- 公共物や公共施設を利用する活動を通して、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるようにする。
- 地域に出掛け、自分の身の回りには様々な仕事があり、それらの仕事があり、それらの仕事に携わっている人たちがいること、それらの関係や自分との関わりに気付けるような機会を設ける。

家庭に伝えるポイント

- 支えている人々と直接関わり、親しみをもてるようにするとともに、その中で支えている人の工夫や気持ちに気付けるようにする。
- 学校での経験を共有し実生活とつなげる。

7歳

小学校入学後

## II 人と関わる力

### 6 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

- ⑪ 言葉・挨拶
- ⑫ 読み聞かせ

要領・指針の ねらい・内容 との関連	乳児 1歳以上 3歳未満児 3歳以上児	身近な人と気持ちが通じ合う②③-①②④ 言葉①②③-①②③④⑤⑥⑦ 人間関係②-②③ 言葉①②③-①②③④⑤⑥⑨ 人間関係②-⑥
--------------------------	---------------------------	--

年齢の  
目安

0歳

#### 子供の育ちの姿

- ・音のする方を見たり、大人の声掛けを喜んだりする。
- ・喃語が出て、少しずついろいろな表情で感情を表現するようになる。
- ・絵本を読んでもらうことで読み手とのつながりを感じ安心感をもつ。

#### 環境構成や援助のポイント

- ・目を見て、親しみをこめて言葉掛けすることで、人と気持ちを通わせる心地よさを感じさせる。
- ・十分に愛情をもって接し、信頼関係をつくる。
- ・子供の表情を汲み取り、子供の気持ちを言葉で返すようにする。
- ・喃語を優しく受け止め、子供とのやりとりを楽しみ、愛着関係や信頼関係を育てていく。
- ・子供の生活経験にふさわしい絵本を身近に揃え、膝の中に入れるなどして、語り掛けるように読み聞かせる。

#### 家庭に伝えるポイント

- 子供の目を見て笑顔で挨拶する。(笑顔での挨拶が心に響く)
- ・特にこの時期は、テレビ等、余分な音や画面、刺激が強いものは消して静かな環境で過ごすことの大切さを伝える
- たくさん話し掛ける。
- 絵本に触れる機会をつくる。

\*「家庭に伝えるポイント」の○印の内容は、「はましくファイル・ノート」「家庭で大切にしたい子育てのポイント」の言葉・挨拶 読み聞かせに記載されているもの。

1歳

#### 子供の育ちの姿

- ・身振り、発声、表情などで、自分の要求を表現するようになる。
- ・一語～二語文で自分の思いを表したり、不思議に思ったことを尋ねたりする。
- ・絵本や紙芝居等に興味をもって見たり、繰り返しの言葉のやりとりや模倣を楽しんだりする。

#### 環境構成や援助のポイント

- ・子供の要求を温かく受け止め、分かりやすい言葉で共感し語り掛ける。また、自分なりに表現できたことを身振りなどで褒める。
- ・言葉を使い始めた頃の話したい気持ちを受け止め、共感するとともに言葉で返し、子供の疑問には丁寧に答えたり一緒に考えたりしていく。
- ・絵本や物語により、心の豊かさや言葉に対する感覚が養われていくため、発達に合った良質な絵本を選択するように努める。(心地よい言葉の繰り返しがある、ストーリー性がある、想像する楽しさがある、言葉が豊かなど)

#### 家庭に伝えるポイント

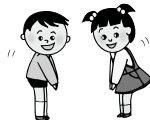
- ・言葉を習得する時期のため、まだ言葉にならない表現を受け止め、優しい言葉で語り掛ける。
- 子供の話をじっくり聞く。
- ・子供の疑問に丁寧に答えることの大切さを伝える。
- 寝る前には、絵本を読んで一緒に楽しむ。
- ・メディアが子供に与える影響について伝える。(ゲーム脳・現実体験の重要性・人への基本的信頼感の育成・ノーテレビデーなど)



2歳

#### 子供の育ちの姿

- ・身近な人の話に興味をもって聞いたり、困ったことや要求を伝えようとしたりする。
- ・遊びや生活に必要な言葉や挨拶が分かり、使おうとする。
- ・身近な大人が読んでくれる絵本や紙芝居等を楽しみに見たり、自分から絵本を選んだりする。



#### 環境構成や援助のポイント

- ・話を聞きたくする雰囲気を作り、話し方や内容を工夫する。
- ・安心して表現できるよう、丁寧に聞き、受け止めたり言葉を補ったりして伝える喜びが感じられるようにする。
- ・遊びや生活の中で、場を捉えて手本を見せたり、一緒に言ったりして、必要な言葉に気付かせる。
- ・挨拶ができたことを褒め、「挨拶って気持ちがいいな」「また挨拶したいな」という気持ちを育てていく。
- ・絵本の楽しさを十分に楽しめるよう繰り返し読む。
- ・発達に応じたいろいろな教材を活用する。(大型絵本、紙芝居、指人形、エプロンシアター、パネルシアター、ペープサート、ストーリーテリングなど)

#### 家庭に伝えるポイント

- ・友達とのいざこざは互いの話をよく聞き、相手の気持ちも伝える。
- 生活に必要な言葉や挨拶を教える。(挨拶は、毎日の繰り返しの身で身に付いていく。親が手本となり積み重ねることが大事である。)
- ・うまく言えなくても叱らず気持ちに寄り添う。
- 子供のお気に入りの一冊を大切に  
にする。
- ・子供にふさわしい絵本や選び方について紹介する。



3歳